

普及活動検討会実施報告書

気仙沼農業改良普及センター

実施月日：令和6年2月6日

実施場所：気仙沼合同庁舎504会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	プロ課題 No. 1 「担い手を核とした地域農業の継続・発展」
2	プロ課題 No. 2 「市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展」
3	プロ課題 No. 3 「四季成りいちごの生産体制確立による収量確保」

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロ課題 No. 1 「担い手を核とした地域農業の継続・発展」	4.7	<ul style="list-style-type: none">・課題が明確となり、次年度への取り組みに期待できたこと、乾田直はで収量確保できたことがいいと思う。・サツマイモが高収益作物に選定されなかったのも一つの現実だと思う。・ドローンを活用した手法や省力化支援について評価。えだまめの収穫時期設定評価できる。学校給食でも提供できるよう願う。・地域に必要な情報提供をしており、地域、普及センターのやる気が感じられた。・ほ場整備に必要な高収益作物の指導が充実しており、目途がつく状況で目標は概ね達成されていると感じる。・高収益作物では米を超える反収となり営農意欲向上につながっていると思われ、継続的な指導を願う。	<ul style="list-style-type: none">・高収益作物については、候補作物が決定できたことで、次年度以降は、播種時期や連作障害対策など検討していく予定です。・乾田直はやドローン、RTK を活用した農作業機など省力化技術などの普及を図り、地域農業に貢献していきたいと考えております。・県内には小規模面積での事例が少ないため、他地域の情報を取り入れながら優良モデルとなり得るよう支援していきたいと考えています。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロ課題 No. 2 「市場 等ニーズに 応じた花き ・花木生産 による経営 発展」	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・配置図が良い案。 ・作業の見直しで人件費が40%も圧縮できたことは驚き、それでも通年雇用が難しい現実、農業の難しさだと思う。 ・クロマツの栽培について長期にわたる成果が表れ出荷量増大されたこと評価。 ・成果が出るには期間が必要に感じる。生産者が苦手な労働生産性の計画など普及センターの役割が重要であると感じた。 ・作業効率化の取り組みで今年度の目標概ね達成されている。引き続き課題への対応願う。 ・カイゼンによる収益増が期待できる。遊休農地対策としても有効なので事業拡大に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画では、令和4年以降は80aから1ha程度の収穫面積でしたが、調製施設の整備遅れや湿害による品質低下で計画通りの収穫量確保ができないため、通年雇用するための収益が確保できませんでした。今後、計画に合わせた収穫・収益を確保できるように支援をしたいと思います。 ・労働力の確保はできており、各作業のリーダーになる人を見つけているそうなので、普及センターでは作業方法や配置・動線の改善を提案しながら更なる生産性向上を支援したいと思います。 ・遊休農地の情報を市町からもらえるそうですが、貸借は本人任せのため、なかなか借りるのは難しいそうです。普及センターが間に入れる場合は両者のマッチングを進めて事業拡大を目指したいと思います。
プロ課題 No. 3 「四季 成りいちご の生産体制 確立による 収量確保」	4.7	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい栽培技術なので頑張ってほしい。 ・積極的な機械導入や先進地視察、規模拡大、人材雇用など着実なステップを踏んでいる印象。 ・いちごについての説明がとても分かりやすかった。生産の苦労など学べた。 ・他産業から参入で補助事業など生産者へ伝えられており、有用だと思う。 ・この地域初の四季成りいちごの取り組みで苦労が多かったと思われるが、支援により目標以上の収量達成。 ・他業種からの挑戦だが販路含め軌道に乗っていると感じられる。今後も施設の充実を図り収益性確保願えれば。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規模を拡大しての四季成りいちご生産は今年度が初めてであったため、様々な課題がありましたが、巡回指導、定例会、先進地視察を通じて、栽培技術の向上、経営安定化支援を実施した結果、目標収量を達成できたと思います。 ・次期作に向けた機械導入、規模拡大に対しては、今後も定例会、巡回指導にて、補助事業の情報提供や栽培技術指導を行い、収益向上が確保できるように引き続き支援してまいります。